

楠ヶ丘会 ウィメンズくらぶ

No. 27

2020.03.25

発行 楠ヶ丘会ウィメンズくらぶ世話人一同

〒651-2187 神戸市西区学園東町9丁目1番 神戸市外国語大学楠ヶ丘会館内

Tel・FAX 078-794-8108 <http://www.kusugaoka.jp/>

<https://www.facebook.com/kusugaokawomen>

ウィメンズくらぶのこと

今年は、阪神淡路大震災から25年。「ウィメンズくらぶ」はその前の年にスタートしました。女性の卒業生が増えつつある中で、でも女性を取り巻く環境は希望や夢を叶えるにはとても厳しい状況にありました。そんな中で、女性の置かれている社会的地位の低さに甘んじることなく、自らを鼓舞しながら道を切り開いている同窓女性の姿もあり、何とかお互いに励ましあひながら後に続く後輩女性たちに少しでもいい環境をとスタートしました。でも、具体的に何をしたらいいのかは全く手探りの状態でした。結局残ったのは、女性同窓生を講師に招いての毎年の講演会&交流会でした。それから25年。今年は第24回目の講演会を開催することになりました。この間、快く講師を引き受けて下さった皆さま、参加され貴重なご意見を下さった皆さまなど多くの方々のお支えに心からの感謝です。

翻ってこのように私たちは何もしていないのではないはずなのに、ではこの25年間で女性の置かれている政治的・社会的環境はどれほど前進したのでしょうか？ 日々の生活で実感できる事がどれほどあるのでしょうか？ 昨年末、世界経済フォーラムが発表した男女格差(ジェンダーギャップ)の指数が、153か国の中で121位。過去最低を記録したといわれています。結婚、子育て、いやそれだけではなく、介護の問題など、いわゆる性別役割分業という考え方がいつまで女性のキャリア形成に影を落とすのか、いやそれだけではなく、さらに今社会格差が広がる中でそのしわ寄せが社会的立場の弱い女性にきていて、生きることに必死にならざるを得ないことが又格差を生み出しているという現状があります。私たちは手をこまねいて見ているだけではなかったはずなのに。

同窓生の皆さんの中には、社会の第一線でご活躍されておられる方、日々ご家庭で過ごされておられる方様々な方がおられると思います。でも多分思いは同じではないでしょうか？ 一度皆さんとそんなことじっくり話し合ってみたいと思いますが、いかがでしょうか？

私たちの試みが、少しでも皆さまの日々にお役に立てればこんなうれしいことはありません。

(H)

ウィメンズくらぶ第23回講演会・交流会報告

聞く技術、書く技術、読む技術

—「選べなかった命 出生前診断の誤診で生まれた子」を中心に—



講師：ノンフィクション作家

河合 香織 さん (学48P)

最新作「選べなかった命」が大宅壮一ノンフィクション賞、新潮ドキュメント賞を受賞し、今、最も注目されているノンフィクション作家のひとりである河合香織さんを講師にお迎えしたこともあり、会場はいつにも増して熱気に包まれたものとなりました。

外大在学中は将来への迷いと不安の日々を過ごしていたという河合さん。そんな折、障害者をテーマにした政治学の授業のレポートを教員に高く評価され、また、阪神大震災の際にボランティアを経験したことから、「被災者はこういう人」「障害者はこういう人」などと型通りに見られていた人々ひとりひとりの生き様を描きたいと思い、ノンフィクション作家を志したのだそうです。

「選べなかった命」で河合さんが取り上げたのは、「函館裁判」と呼ばれる裁判です。2011年、出生前診断では異常なしといわれていた子がダウン症で生まれ、合併症により生後数か月で死を迎えたことから、「正確な告知を受けていれば中絶した蓋然性が高い」として両親は医師を提訴しました。日本では胎児の障害を理由とした「選択的中絶」は認められておらず、命の選別は生命倫理に反すると医師側は主張。裁判は両親側の勝訴で終わりましたが、両親が本当に求めていたのは、自分たちへの賠償金ではなく、苦しんで死んでいった子への誠意ある対応、謝罪でした。

河合さん自身、妊娠中にお子さんの障害の可能性を指摘され、「それでもどんな子でも産みたい」と考えていたにも関わらず、いざ出産となった時に「無事であってほしい」と切に願ったそうです。障害者への取材の経験もあり、障害者に対して理解があると思っていた自分は実際は何もわかっていなかったと痛感した河合さんは、この裁判の原告にどうしても話を聞きたいと函館に飛び、5年にわたって取材を敢行。その一方でダウン症当事者とその親、障害者団体、助産師等、「命の選別」の問題に対峙する人々の声も拾い集めていきました。生命倫理に答えはあるのか、答えは一つである必要はあるのか、どのような子は生まれるべきか、それを決めるのは両親か医療か――。

河合さんが本書で投げかけたのは「誤りのない人生は幸せなのか」という問いです。とかく失敗を忌避しようとする社会、しかし「偶然」によって得られるものもあるのではないか。善悪の先にあるものや、偶然によって出会ったものを受け入れ、互いを許しあうことが、誰もが生きやすい社会につながるのではということを訴えたいといっています。

取材・執筆において、河合さんは以下のようなことを心がけています。

- ・ ゆっくり取材を始め、ゆっくりと聞く
- ・ 一度ですべてを聞き出そうと思わない
- ・ 相手に敬意を払う（自分より上等な人間だと思う）
- ・ 書くことも、読むこともゆっくり

答えを急ぐような態度では、相手の本当の気持ちを聞き出すことはできません。何年にもわたる取材の最後になって初めて相手が「本当はこう思っていた」と吐露することもあるといっています。

「本当はこれを聞いてほしかった」「このことを聞かれることを待っていた」と相手に思われるような質問をすることができた時、相手の柔らかい心に触れることを許してもらえたと感じ、この仕事をしていて一番幸せを感じるそうです。

現在、東京大学大学院学際情報学府にて生命倫理を学んでいる河合さん。今後は緩和ケア、安楽死などをテーマに、どのように人が「亡くなる選択」をしていくのかを追求していきたいとのこと。常に新しい問題に果敢に挑む河合さんのこれからのご活躍を心から期待し、次作を楽しみにしています。河合さん、ご参加下さった皆様、本当にありがとうございました。

文責：檜原令子 (学46E)



♪♪♪♪ アンケートの結果です ♪♪♪♪

(30名の方から回答をいただきました)

- Q. 開催をどのようにして知りましたか。
案内ハガキや同窓会誌が20人、友人・知人から4人、インターネットが3人、ポスター・チラシが2人、ウィメンズくらぶニュースが2人
- Q. 開催日時（時期、曜日、時間等）は？
良い24人、普通5人 外大祭開催中で賑やかな雰囲気も味わえて良かったとお声をいただきました。
- Q. 会場（アクセス、設備等）は？
良い24名、普通5名 母校での開催は変わらず好評のようです。
- Q. 講演会のご感想
- ・ノンフィクション作家の方のお話を、卒業生の中で聞け、本当に貴重な機会となりました。また、各方面で活躍されている方のお話を聞ければと思いました。特に、ファーストキャリアやどのように仕事をしていくかについても答えて頂けて、若手の卒業生として大変参考になりました。
 - ・ご著書の著書紹介では知ることのできないプロフィールや、記述されていない本音も聞くことができ、とても貴重な時間を過ごすことができました。また、取材に対する姿勢や大切にされていることをお聞きすることができて勉強になりました。交流会で先生とお話しできる機会があるのはとてもよいと思いました。
 - ・内容、プレゼン資料がまとまっていて、わかりやすかったです。ノンフィクション作家として、取材対象の方に対する姿勢が人間としてすばらしく、信頼を得ることができるからこそその作品につながっているのだと納得できました。
 - ・「ゆっくりと話を聞き、ゆっくりと書き進め、ゆっくりと読む」の言葉が印象深かったです。Yes/Noの選択を簡単にできないことばかり、偶然性に囲まれた人生をしなやかに受け入れて、日々を過ごそうと感じました。河合さんの次の作品を期待してお待ちしています。
 - ・「問い」にくいテーマとしっかりと誠実に向き合っている姿がとても印象深かったです。ゆっくり聞いて、ゆっくり書いて、ゆっくり読み、余白を残して話を聞くということ、味わい深いと思いました。
- Q. 次回以降の講演会・交流会で取り上げてほしいテーマ、講師
環境問題、起業した卒業生の話、退官されたなつかしい先生方、等のご提案をいただきました。
- Q. ウィメンズくらぶの講演会・交流会および活動全体についてのご要望、ご提案
若い世代がもっと参加できる催し、グループワーク、30～40代の卒業生の講演、等のご提案をいただきました。



お知らせ

ウィメンズくらぶ 第24回講演会・交流会

「国連の仕事と日本の優れた技術や経験の世界への普及」

講師：星野幸代さん (I44E)

国際連合人間居住計画 (ハビタット)

福岡本部 (アジア太平洋地域担当) 本部長補佐官



- ・日 時：2020年11月29日(日) 午後1時30分～
- ・場 所：神戸市外国語大学 三木記念会館
- ・参加費：無料

講師略歴：神戸市外国語大学 2部英米学科卒業、神戸大学大学院修了。日本郵船、モルガンスタンレー証券会社を経て2004年より国連ハビタット福岡本部に勤務。イラク担当専門官としてイラク復興事業に従事したのち、現在は本部長補佐官として、廃棄物や上下水など環境分野のプロジェクトをアフリカやアジア太平洋地域で実施しており、特に日本の中小企業や自治体の優れた技術やノウハウを活かした技術移転事業に注力している。国内では、自治体・公共機関・教育機関等の委員等を務める。

関東ウィメンズくらぶ 第14回交流会

「三味線レクチャーコンサートとランチ親睦会」

講 師：吉井優子さん (旧姓：森口) (学24P)

日 時：2020年5月17日(日) 11:30～14:30

受付開始 11:00～

会 場：(コンサート) 日本出版クラブホール

東京都千代田区神田神保町1-32 TEL: 03-5577-1511

(ランチ) 咸亨酒店

東京都千代田区神田神保町2-2 TEL: 03-3288-0333

会 費：5,000円

お問い合わせ先：藤岡佐恵子 (学33H)

メー ル：campo-de-girasoles@ezweb.ne.jp

T E L：080-5035-8280 (平日は午後6時以降の対応となります)

詳細は決まり次第、随時関東支部ホームページにてお知らせします。

関東支部HP <http://www.ronnakamura.com/gaidai/index.htm>